

# 朝鮮大学校 vs 東京国際大学

5月12日(日)  
11:30K.O.  
東海大G

2勝目を挙げて8位に浮上した朝鮮大が、6連勝で首位を走る東国大と対戦する。調子を上げつつある朝鮮大が、東国大を止めることができるか。

その朝鮮大は前節、東海大に4-1で快勝した。前半の早い時間帯で先制点は奪われたものの、後半に入り風上をうまく利用して相手陣内に入り込み、後半だけでシュート14本を放ち4点をマークした。DF任良太(4年)がスタメンに戻り、MF朴利基(3年)が前線でボールに絡めることになったのも功を奏した。しかし、先制点の取られ方は自陣でのミスが起点であり、勢いに乗る首位チーム相手には大量点のきっかけにもなりかねない。攻撃面では徐々に調子が上向いてきているだけに、いかにミスを少なくし、球際の勝負で勝てるかどうか。「後半、走り抜いて勝てたのは次につながる。首位チームに胸を借りるつもりで全力でぶつかりたい」(金載東監督)。

一方、快調に首位を走る東国大は前節、関学大を4-1で下した。堅守速攻でスタートした初の関東リーグ挑戦だったが、ここ3試合では11得点と、攻撃面も絶好調だ。前節の関学大戦は、前半こそ相手にボール支配を許しロスタイムに先制を許したものの、62分にセットプレーから追いつくと消極的になった相手を攻め立てて

連続得点し、大差をつけた。「前半は相手を怖がって逃げるサッカーをしていたが、ハーフタイムに“もっと前へ”という指示を出したところ選手たちが頑張ってくれた」(前田秀樹監督)。連戦を絶好の形で乗り切り死角が見えないが、「朝鮮大はハートがあり、ひるむとやられる。粘り強く戦いたい」(前田監督)。

<出場停止>なし / 3回警告: 慎鎬紀(朝鮮大)、加藤龍治(東国大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

朝鮮大		東国大	
2. 李永照	17. 高志煌	11. 高橋	15. 加藤
3. 李教俊	14. 朴利基	9. 福島	3. 阿部
21. 康貴成		10. 若井	
1. 李在根		21. 今野	
6. 任良太		26. 佐伯	
22. 慎鎬紀	16. 韓勇俊	28. 青島	5. 川島
7. 尹昌洙		17. 小玉	6. 鹿糠
23. 安泰永			

# 関東学院大学 vs 東海大学

5月12日(日)  
13:50K.O.  
東海大G

開幕2連勝のあと勝利がなく、7位まで後退してしまった関学大と、連勝が止まってしまった東海大との対戦。どちらにとっても重要なゲームだ。

関学大は前節、首位の東国大と対戦して1-4という完敗。石村大監督も「スコア以上の差を感じた。相手は一人ひとりがゴールに向かう力が素晴らしかった」と脱帽するほど、全勝チームの勢いがあつた。先制点を奪ったのは関学大で、前半ロスタイムという絶好の時間帯だったが、後半に入って一気に出足が早くなった東国大の圧力に押され、62分に同点弾を許すと、その後はプレーがさらに消極的になり、立て続けに得点を許してしまった。「リードして折り返し、そのままでは終わらないと想定はしたが…。しっかり自分たちのプレースタイルを出せるようやっていきたい」(石村監督)。大敗はあまりないチームだけに、気持ちの切り替えも必要だ。

対する東海大は、開幕3連敗のあと2連勝で調子が上向いてきていたが、前節は朝鮮大と対戦して1-4で敗れてしまった。またも課題であった大量失点を喫してしまっただけに、ショックも大きいはず。前半11分という早い時間帯に、自陣で奪ったボールを速攻につなげて先制点を奪ったが、後半に入って朝鮮大の猛反撃を受け、

14本ものシュートを許し4点を献上した。風に乗ったロングボールで押し込んでくる朝鮮大の攻撃に対応できなかったのが主な失点の要因だが、やはり失点をなるべく減らすことが課題だ。「前半、リードしていたわりにはゲームを支配できなかった。ケガ人が出たのでまずはコンディションをしっかりと戻したい」(内山秀一監督)。

<出場停止>なし  
<昨年の対戦>前期/関学大0-2東海大、後期/関学大1-0東海大

関学大		東海大	
32. 吉田	9. 富樫	9. 大村	39. 小野
4. 久保	34. 鈴木		3. 小山
23. 長谷川		11. 峯	34. 羽毛
1. 守山		25. 桑原	29. 椎橋
7. 太田		4. 湯川	
3. 土館	10. 橋村	5. 元田	
6. 木村	8. 山本	14. 塩田	
		38. 大谷	

\* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています\*

# JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦



編集: 五味亜矢子 印刷: 関東大学サッカー連盟 協力: 関東大学サッカーサポーターズクラブ

## 連戦終え前半戦は残り3節!

ゴールデンウィーク中の連戦を終えた JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2部リーグは、これで前半戦の 2/3 を消化し、依然、東国大が全勝を守り首位を走っている。前節も 4 得点を奪って関学大を破り、得点数、失点数とも 12 チーム中ナンバーワンという活躍ぶりだ。今節は、東海大を 4-1 で破って調子が上向きつつある朝鮮大が東国大に“挑む”形となる対戦が注目を集める。

首位を追う駒大は、拓大に 2-0 で勝利、3 位の神大は青学大に敗れて順位を落とし、青学大は 4 位に浮上。さらに、平国大を 3-1 で下した東学大が 3 位に順位を上げた。また、東農大も法大に 1-0 で勝利して 5 位につけているが、法大は再び最下位に転落した。今季のリーグ戦は前半戦が第 9 節までとなっており、残りは 3 節と

得点ランキング		アシストランキング	
6: 小牟田洋佑 (駒大)		4: 佐伯 拓磨 (東国大)	
5: 山本 大貴 (駒大)		3: 高橋 明嗣 (東国大)	
4: 伊東 純也 (神大)		碓井 鉄平 (駒大)	
3: 全 8 名		今野 順 (東農大)	
2: 全 18 名		2: 全 9 名	

なった。連戦を終え、少しずつ上位と下位の差が開いてきているだけに、上位の独走を許さないためにも下位チームの巻き返しが期待される。

## JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第 6 節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	東学大	青学大	神大	東農大	関学大	朝鮮大	拓大	東海大	平国大	法大	勝数	負数	得点	失点	得失差	勝点	
1	東国大		100	201	未定	100	未定	401	5/12	301	5/19	5/26	400	6	0	15	3	12	18	
2	駒大	0●1		5/19	401	5/26	302	200	未定	200	401	5/12	未定	5	1	0	15	5	10	15
3	東学大	1●2	朝鮮大G		0●1	未定	201	5/25	200	5/11	201	301	未定	4	2	0	10	6	4	12
4	青学大	未定	1●4	100		201	5/11	0△0	1●2	5/25	未定	5/19	401	3	2	1	9	8	1	10
5	神大	0●1	東海大G	未定	1●2		301	未定	201	5/19	1●2	301	5/12	3	3	0	10	8	2	9
5	東農大	未定	2●3	1●2	たつこ	1●3		300	5/19	200	5/26	未定	100	3	3	0	10	8	2	9
7	関学大	1●4	0●2	青学大G	0△0	未定	0●3		400	未定	5/12	300	5/19	2	3	1	8	9	-1	7
8	朝鮮大	東海大G	未定	0●2	201	1●2	朝鮮大G	0●4		0●1	401	未定	5/26	2	4	0	7	11	-4	6
9	拓大	1●3	0●2	味スタ西	青学大G	青学大G	0●2	未定	100		未定	2●3	201	2	4	0	6	11	-5	6
10	東海大	東海大G	1●4	1●2	未定	201	東海大G	東海大G	1●4	未定		302	2●4	2	4	0	10	17	-7	6
11	平国大	朝鮮大G	法大G	1●3	青学大G	1●3	未定	0●3	未定	302	2●3		1△1	1	4	1	8	15	-7	4
12	法大	0●4	未定	未定	1●4	法大G	0●1	東海大G	朝鮮大G	1●2	402	1△1		1	4	1	7	14	-7	4

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

負けたら、立ち上がるだけだ。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」  
http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/



# 東京学芸大学 VS 拓殖大学

5月11日(土)  
11:30K.O.  
味スタ西

2連勝で3位に浮上した東学大と、3連敗で9位に後退した拓大。上位を追い上げたい東学大と、連敗を止めたい拓大、状況は対照的な2チームの対戦はいかに。

東学大は前節、平国大を3-1で破った。どの試合も、全体的には攻めながら決定力不足に悩んでいただけに、今季初の3得点は明るい材料だ。前線の選手が平国大DFの裏を取る動きと、そこへクロスを入れるという形が徹底された。また、試合開始早々の4分に先制点を奪ったことも大きかった。一方で、守備面ではしっかり相手の二次攻撃を防いでゴール前に入り込ませず安定していたが、相手に許した1本のシュートをゴールにつなげられてしまった。失点シーンの前に決定的なチャンスを逃していたこともあり、試合の流れを変えないためにも慎重な対応が必要だ。「相手の勢いを止める守備と、流れのあるボールの運び方からのゴールの部分に磨きをかけていきたい」(西園聡史監督)。

対する拓大は、前節は駒大と対戦し、0-2で敗れてしまった。内容的には互角の好ゲームであったが、79分、84分という終盤の失点。最後は、駒大の高さとパワーに屈した形となってしまった。拓大がリズムをつかんでいたのは前半で、得意のパスワークからチャンスをつか

みかけたが、得点につなげることができず。玉井朗監督も「ビルドアップできてシュートでも終わって、練習通りの形ができていた。もっとフリーな形でシュートを打てるようにしたい」と悔しそうだった。連敗中とはいえ悲観するような内容ではなかっただけに、今節は重要なゲームとなりそう。競り合った試合を勝ち切る勝負強さを発揮することができるか。

<出場停止>なし  
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東学大	拓大
5. 廣木	2. 西本
14. 佐藤	20. 片
4. 脇本	9. 西岡
30. 平田	14. 菅原
7. 山崎	3. 丸山
12. 須賀	21. 小林
10. 茶島	7. 川崎
2. 大里	11. 内野
11. 遠藤	4. 菊野
8. 佐々木	15. 長沢
28. 吉田	23. 小針

# 駒澤大学 VS 平成国際大学

5月12日(日)  
11:30K.O.  
法大G

苦しい試合ながら連勝を続け、2位につけている駒大と、4試合勝利がなく11位の平国大との対戦。得点力トップタイの駒大に、平国大がどう挑むか。

その駒大は前節、拓大に2-0で勝利した。スコアこそ快勝に見えるが、秋田浩一監督は「内容は良くなかったが、勝ててよかった」と、3試合連続で苦しい試合を粘り勝ってきた感想を口にした。前半は特に拓大のパスワークから攻め込まれる展開で、その先制攻撃に耐えたことで流れを変えることに成功した。前半につかんだチャンスこそ逃したが、終盤になって79分、84分とFW小牟田洋佑(3年)が2得点をマークして一気に相手を突き放し、結果的には駒大らしいパワーが最後に生きた形となった。秋田監督は「動き出しが遅い。周りへのボールの受け渡しがうまくいかなかった」と反省も口にしたが、勝負強さを見せているのは明るい材料。得点力はあるだけに、粘り強い守備を続けていきたい。

対する平国大は前節、東学大に1-3で敗れた。これで4試合勝利がない苦しい状況に陥っている。東学大戦は、試合開始早々の4分に、ゴール前のボールをクリアし切れず先制点を許してしまった。この1点で相手を勢いづかせてしまった感もあり、西川誠太監督は「ミスで

失点したことがすべてだった」と悔やんだ。しかし、その後は押し込まれながらも平国大らしく自分たちの攻撃の形をつくろうと積極的なプレーを見せ、ようやく82分に一矢を報いるミドルシュートを決めた。「負けが込んでも消極的にならず、駒大を見習ってどれだけ積極的にプレーできるかが大事」(西川監督)。

<出場停止>なし  
<昨年の対戦>前期/駒大2-0平国大、後期/駒大2-1平国大

駒大	平国大
3. 田中	16. 増田
23. 久永	11. 千葉
4. 平尾	37. 小松崎
7. 碓井	6. 本田
9. 小牟田	42. 四辻
10. 山本	18. 星子
1. 大石	30. 馬屋原
6. 若山	33. 福嶋
15. 川岸	2. 須藤
11. 小牧	43. 赤澤
31. 鈴木	44. 深井

# 青山学院大学 VS 東京農業大学

5月11日(土)  
11:30K.O.  
たつのこ

3試合負けなしで4位に浮上した青学大と、再び星を五分に戻した東農大との対戦。守備面を改善し安定感の出してきた両チームだが、先に相手を崩すのはどちらか。

青学大は前節、神大に2-1で勝利した。2点を先行できたゲームだったが、試合内容はまさに接戦をモノにしたという会心の勝利。宮崎純一監督も先制点を奪ったことをポイントに挙げつつ、「相手よりも早くボールに触る、相手よりも強くボールを奪うという小さな差が得点につながった」と話した。神大という昨季1部チームとの対戦にあたり、立ち上がりから積極的に仕掛けたことが主導権を握るきっかけとなった。どちらかといえばパスをつなぐことに固執し視野が狭くなりがちだったが、この日はサイドアタックを徹底してリズムをつかみ、MF後藤拓斗(3年)が2得点。「もっと得点を取ることが次までの課題」(宮崎監督)。徐々に攻守のバランスが整ってきた感がある。この流れを続けていきたい。

対する東農大は前節、法大を1-0で破った。連勝が途切れた後の大事なゲームであり、低迷する法大にとっても負けられない試合を粘り強い守りでモノにした。前半9分という早い時間帯に得点を奪えたこともポイントで、相手ミスからのボールを前線に素早くつなぎ、FW

相川優介(3年)が鮮やかなミドルシュートを決めた。前の試合の駒大戦の反省もあり、「リードして前半を終え、後半を耐えられたのがよかった」と木村俊夫コーチ。法大の攻撃を集中力で守り切り、貴重な勝点3をゲットした。先に失点することが少なくなり結果が出てきたが、攻撃面では修正しておきたい点もある。「もう少し前線で時間をつくりたい」(木村コーチ)。

<出場停止>なし  
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

青学大	東農大
20. 服部	23. 徳田
22. 恵	14. 石川
4. 中村	15. 小田原
10. 木澤	10. 浜田
40. 高橋	18. 今野
6. 高山	9. 相川
8. 後藤	30. 矢口
28. 伊藤	6. 中垣内
16. 京谷	5. 櫻岡
3. 早田	11. 井上
18. 関谷	27. 加藤

# 神奈川大学 VS 法政大学

5月12日(日)  
13:50K.O.  
法大G

前節、敗れたチーム同士の対戦。リーグ戦では法大が2部リーグに降格してから3年ぶりの対戦となるが、どのようなゲームを見せてくれるか。

神大は前節、青学大に1-2で敗れ、今季初の連敗を喫してしまった。敗戦の後の試合を大事に戦いたかったところだが、前半の立ち上がりから風上に立った青学大の積極的な攻撃を受ける立場となってしまう、19分にPKを与えて早々と先制点を奪われた。高峯弘樹監督も「立ち上がりが大事という話をしていたが、特に前半はよくなかった」と悔やんだように、これが試合の流れを決めてしまった。後半はボールに対するプレッシャーも早くなり、攻撃の時間も格段に増えたが、74分に与えた追加点が痛く、反撃はPKによる1点止まり。青学大の粘り強い守備を崩すことができなかった。「もう一度試合の入り方と、どうやってフィニッシュに持っていかを準備したい」(高峯監督)。

対する法大は今季、ここまで1勝4敗1分と苦しんでいる。前節は、圧倒的に攻め込みながら東農大に0-1で敗れた。ここ4試合は得点もわずか2点にとどまり、勝ち星がないという苦しい状況に陥っている。東農大戦は、前半9分に喫した1失点で敗れた形だが、これも口

ングボールに対する処理に手間取ったことから招いた、防げる失点であった。「失点はつきものだが、一つのミスでチーム全体が沈んでしまう精神的な弱さが出た」(大石和孝監督)。点を取って浮上のきっかけをつかみたいところだが、ボールは持ちながらフィニッシュへの形がなかなか作れない。「まずは戦う気持ちから」(大石監督)。最下位を脱出し、巻き返しを図りたい。

<出場停止>なし / 3回警告: 杉山祐亮(神大)  
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

神大	法大
3. 高木	8. 大野
14. 芦野	24. 白石
2. 柿崎	10. 上星
10. 伊東	13. 木村
7. 長野	17. 森保
1. 松田	21. 田村
16. 前田	28. 西室
5. 杉山	14. 松本
4. 向山	27. 田代
11. 星	3. 岡
8. 須郷	23. 三田